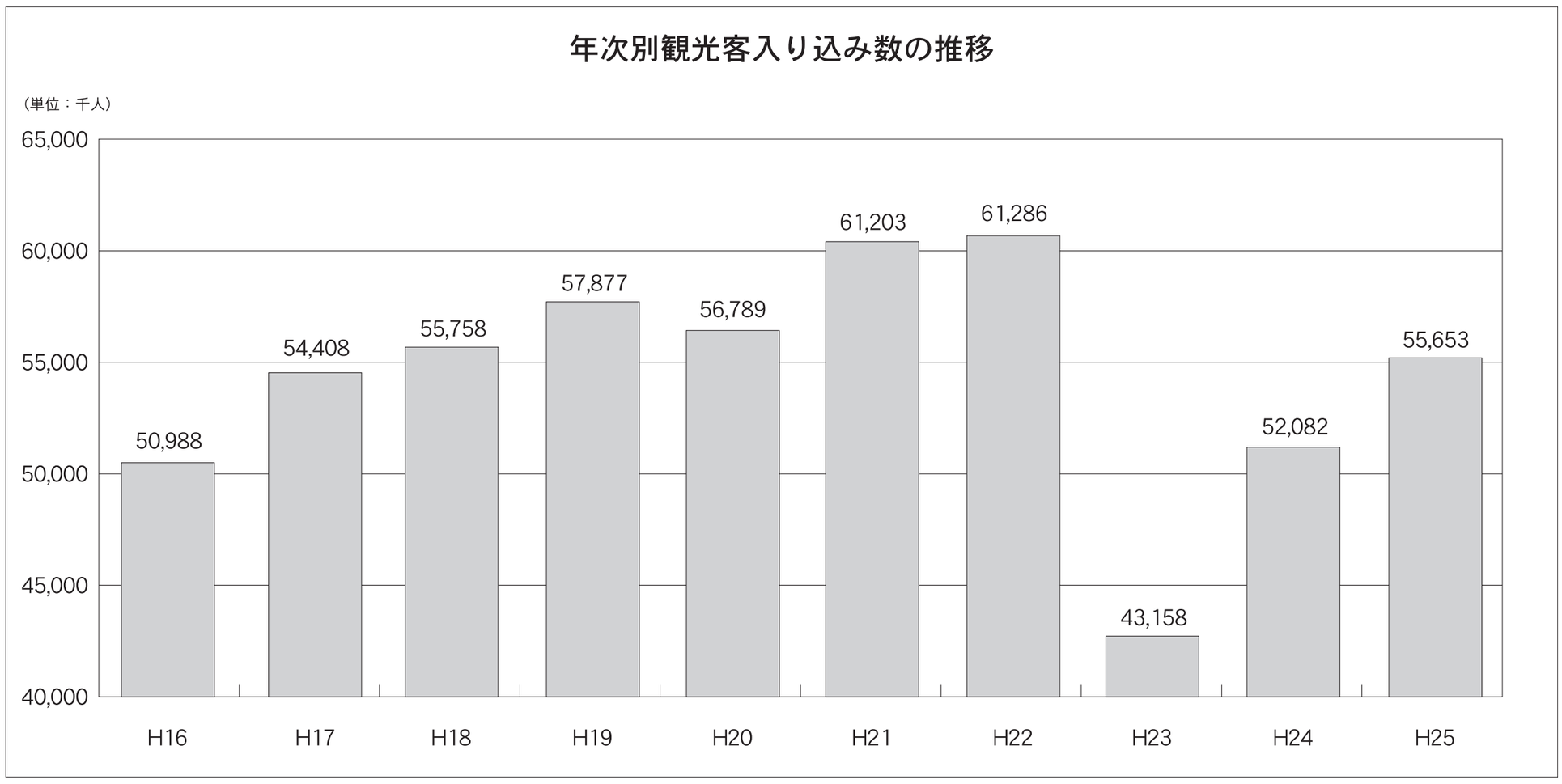
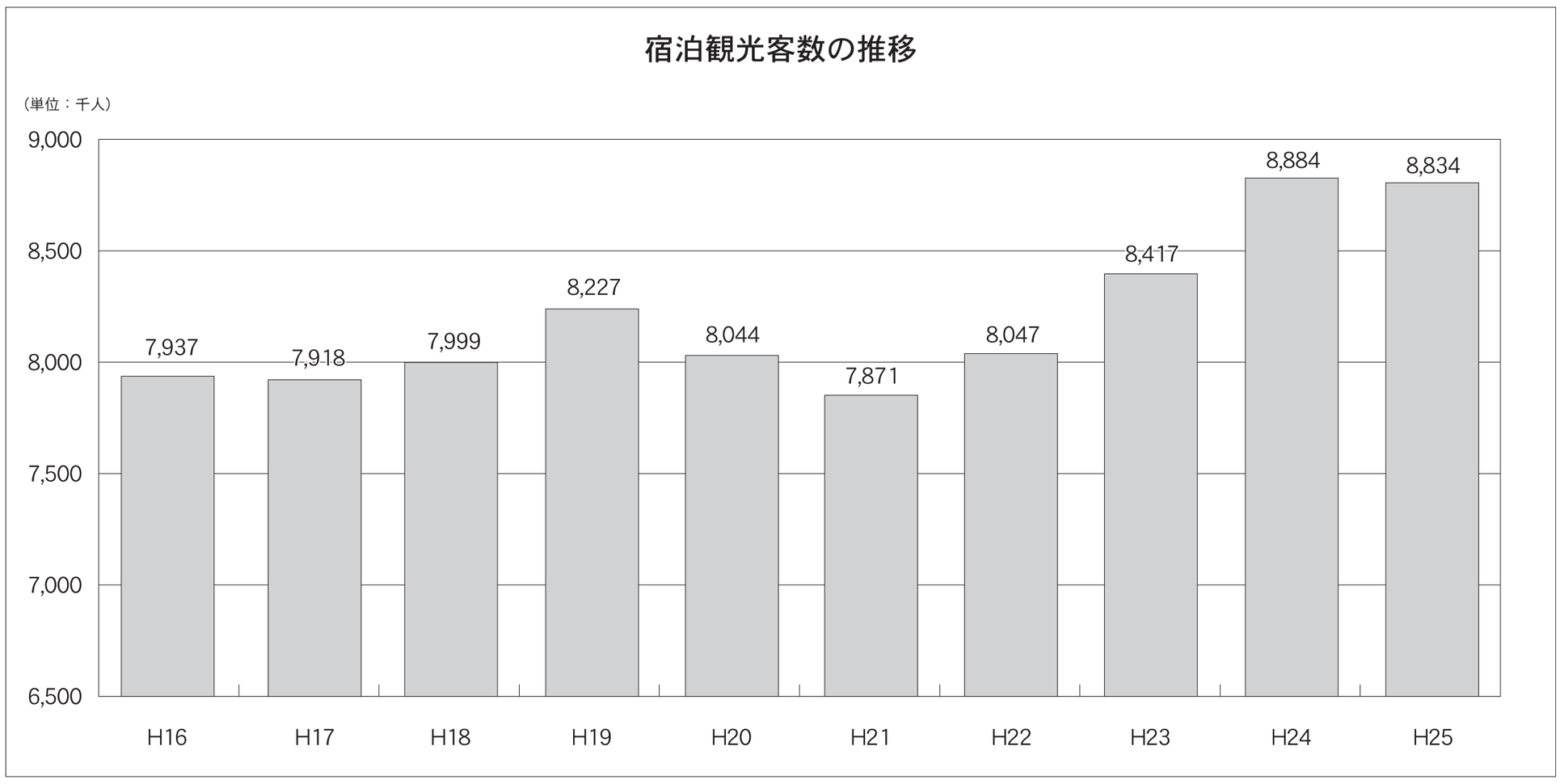
観光入り込み客数 前年比6.9%増加

平成25年 宮城県の観光統計概要（速報値）

調査データ

宿泊観光客数は微減も震災前を上回る





圏域別宿泊観光客数

（単位：千人）

	H22	H24	H25	H22年比	H24年比
仙南圏域	607	765	676	111.4%	88.3%
仙台圏域	5,649	6,593	6,667	118.0%	101.1%
大崎圏域	927	1,010	843	91.0%	83.5%
栗原圏域	87	102	114	130.9%	111.3%
登米圏域	26	32	26	101.5%	82.3%
石巻圏域	311	84	175	56.2%	208.0%
気仙沼圏域	441	299	333	75.6%	111.6%
合計	8,047	8,884	8,834	109.8%	99.4%

※四捨五入の関係で一致しない場合がある

DC、復興需要が奏功

宮城県の観光統計（速報値）によると、同県への昨年1年間（平成25年1～12月）の観光客入り込み数は5565万人で、前年比6・9%増加（357万人増）した。また昨年1年間の宿泊観光客数は883万人で、同0・6%減少（5万人減）した。

入り込み数は、東日本大震災前の平成22年と比べると564万人少ない91%の水準（9・2%減）にあるが、「平成22年比で85%の水準だった昨年からは着実に回復している」（同県）。

圏域別では、内陸部の仙南、栗原などが平成22年比で順調に回復している一方、震災・津波で甚大な被害を受けた石巻、気仙沼はそれぞれ平成22年比で63・0%、52・4%で、圏域間で回復の状況に差がみられる。

前年から観光客入り込み数が増えた要因として、仙台・宮城デスティネーションキャンペーンの開催による官民一体となった誘客キャラバンの実施や、復興ツーリズムなどの各種観光施策による誘客効果があったものと考えられる。

一方、宿泊観光客数は、前年比では減少したものの、震災前の平成22年との比較では9・8%（78万人）増加している。

圏域別では、石巻、気仙沼が前年比で増加しているものの、宿泊施設の復旧の遅れが影響し、平成22年比ではそれぞれ56・2%、75・6%の水準にとどまっている。ほかの圏域は、おおむね平成22年を上回っている。「引き続き復興関連需要によるものと考えられる」（同県）。